

存留在船使者一員 賈滿度 従人二名

護送の小船に坐駕する使者一員 錢林 従人二名

護送の小船に坐駕する通事一員 林喬^② 従人二名

国王附搭の蘇木一千斤・倭銅一千斤

嘉靖十四年（一五三五）二月初八日

右の符文は長史蔡瀚・都通事梁梓等に付し、此れに准ぜしむ

謝恩等の
事の為にす 符文

注*この謝恩については『明実録』嘉靖十四年十二月丁酉、十五年正

月乙丑の各条に記事がある。

(1) 梁梓 生没年不詳。久米村呉江梁氏（亀嶋家）。官生として南
京国子監に入学。のち長史（『家譜（二）』七五八頁）。

(2) 林喬 生没年不詳。久米村林氏（名嘉山家）三世。通事のち
都通事として暹羅へ一回、明へ五回使する（『家譜（二）』九
一九頁）。

1-25-20

国王尚清の、皇帝と皇太子への進貢慶賀のため正議大夫陳賦
等を遣わす符文（一五三七、八、二〇）

琉球国中山王尚清、進貢、慶賀等の事の為にす。

今、特に正議大夫陳賦を遣わし、長史蔡廷美等と共に、表箋文

各一通を齎捧せしむ。黄字号海船一隻に坐駕して馬一十五匹・硫

黄二万斤並びに鍍金銅結束紅漆靶鞘袞刀一十六把・鍍金銅結束紅

漆鞘沙魚皮靶腰刀一十把・鍍金銅結束螺鈿鞘沙魚皮靶腰刀六把を

装載し、京に赴き御前に進賀し、其の鍍金銅結束紅漆靶鞘袞刀一

十二把・鍍金銅結束紅漆鞘沙魚皮靶腰刀一十把は、京に赴き正位

東宮に進賀し、仍お礼部に赴き告稟して進取せしむる外、茲の諭

遣を承くれば、途に在りて遲滞して使ならざるを得しむる母れ。

所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

正議大夫一員 陳賦

使者二員 高志 邁治刺

都通事一員 梁頤^①

人伴十九名

存留在船使者一員 馬益志 人伴二名

存留在船通事一員 金昇^② 人伴二名

国王附搭の蘇木一千斤・紅銅一千斤

嘉靖十六年（一五三七）八月二十日

右の符文は正議大夫陳賦及び通事梁頤等に付し、此れに准
ぜしむ

符文

注*この進貢については『明実録』嘉靖十七年三月丁酉の条に記事がある。

(1) 梁頭 一五二八―八七年。神谷親雲上。久米村吳江梁氏(龜鳴家) 四世。東南アジアへ三回、明へ六回の渡航の他、官生や総理唐榮司、紫金大夫などの経歴を持つとも伝える(『家譜』(二)『七六二頁』)。

(2) 金昇 一五二〇―七九年。友寄親雲上。久米村金氏(具志堅家) 五世。渡明は六回、官は都通事に至る(『家譜』(二)『五七頁』)。

1-25-21

国王尚清の、進貢慶賀のため長史蔡廷美等を遣わす符文

(二五三七、八、二〇)

琉球国中山王尚清、進貢、慶賀等の事の為にす。

今、特に正議大夫陳賦を遣わし、長史蔡廷美等と共に、表箋文各一通を齎捧せしむ。字字号海船一隻に坐駕して馬八匹・硫黄一万斤を装載し、京に赴き進貢し、仍お礼部に赴き告稟して進取せしむる外、茲の諭遣を承くれば、途に在りて遅滞して便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

長史一員 蔡廷美

使者一員 寿達路

通事一員 林喬

人伴十七名

存留在船使者二員 賈滿度 錢林
存留在船通事一員 蔡廷会

人伴六名

国王附搭の蘇木一千斤・紅銅一千斤

嘉靖十六年(一五三七)八月二十日

右の符文は長史蔡廷美・通事林喬等に付し、此れに准ぜしむ

進貢慶賀等の
事の為にす 符文

1-25-22

国王尚清の、進貢のため長史梁梓等を遣わす符文

(二五三九、八、一)

琉球国中山王尚清、進貢等の事の為にす。

今、特に長史梁梓・使者源徳等を遣わし、表文一通を齎捧せしむ。宙字号小船一隻に坐駕して馬四匹・硫黄二万斤、及び護送の通事林喬の船内に馬二匹・硫黄一万斤、共に硫黄二万斤・馬六匹を装載し、京に赴き進貢し、仍お礼部に赴き告稟して進取せしむる外、茲の諭遣を承くれば、途に在りて遅滞して便ならざるを得